

編集・発行：

石巻市牡鹿地区復興応援隊

いんふお・おしか発行室

発行部数：1,500部

いんふお・おしか



網地島・雷神祭り

網地島・長渡浜の雷神社で、4月30日にお祭りが行われました。
 豪快なあばれ神輿は、長渡や根組の集落を練り歩き、海へ何度も入りました。
 前日には演芸大会も行われ、島が大いににぎわいました。

祝 牡鹿半島食堂いぶきオープン

大原浜の築 80 年となる古民家が「牡鹿半島食堂いぶき」として、4 月 22 日にオープンしました。

震災時に甚大な被害を受けた古民家ですが、地域住民と牡鹿半島に訪れる人達をつなげ、地元の旬を味



木のぬくもりがあふれる店内

わいながら気軽に集まれる場にしようとして、2013 年春から「古民家再生 IBUKI プロジェクト」として修復工事が始まりました。

震災以前に住んでいた安住さんは「震災当時は解体することを考えていたが、思い出深い家のパーツが随所に使われ、とても懐かしく、嬉しさでいっぱい」と感無量の面持ちで話しました。

牡鹿半島 食堂いぶき

時間：11:00～17:00

場所：大原浜字町 18-1

電話：0225-25-7282

HP：oshika-ibuki.com

祝 みちのく潮風トレイル開通

環境省が設定している、青森県八戸市から福島県相馬市の沿岸部を結ぶ長距離自然遊歩道「みちのく潮風トレイル」。

女川町から石巻市牡鹿半島の区間となる約 70km のルートが、4 月 13 日に開通しました。

牡鹿半島区間は、万石浦から旧桃浦小学校跡地、金華山道や小積峠を歩く「牡鹿半島北部」と、小網倉から鮎川浜、そして金華山や網地島、田代島の離島を含む「牡鹿半島南部」の 2 ルートが設定されています。

各区間のおすすめや見所、注意事項が記載された地図は、東北地方環境事務所から取り寄せることができます。



地図を片手に、いざ出発！

東北地方環境事務所

〒980-0014 仙台市青葉区本町 3-2-23 仙台第二合同庁舎 6F

TEL：022-722-2870

HP：http://tohoku.env.go.jp

桜の苗木植樹

大谷川浜復興住宅
清崎復興住宅（鮎川浜）

NPO 法人さくら並木ネットワークによる「さくら並木プロジェクト」で、サクラの苗木を植樹しました。

大谷川浜復興住宅では 4 月 2 日に行われ、「小浜さくら」と名付けられたサクラの苗木 12 本が植えられました。大谷川浜は約 3 分の 2 の世帯が地区を離れ、現在は 9 世帯となっています。

4 月 8 日には、清崎復興住宅に 44 本の苗木が植えられました。肌寒い 1 日でしたが、鮎川浜住民やおしか清心苑の職員、プロジェクトへの支援者やボランティアの人たちなど、およそ 60 名の参加者によって、作業が進められました。

牡鹿半島では、シカの食害を防ぐため、サクラの苗木を囲うネットなどが必要です。資材と手間がかかるだけでなく、土壌も粘土質で固いため、大変な作業となりました。

花見を楽しめるようになるまで、4～5 年はかかるとのことですが、美しいサクラが咲く日を待ち望んでいる様子が、住民から伝わる植樹作業でした。



「鮎川浜 夢と希望の桜」を囲んで



みんなで協力して植え付け

おしが探訪

鯨のある暮らし



新潟県から鮎川浜に移住した関原雅人(せきはらまさひと)が、出会ったものごとを探り歩くコーナー。山に囲まれて育った私にとって、海のある牡鹿半島の暮らしは、目からウロコが落ちっぱなしです。今回は、鯨のことを探訪しました。

鮎川浜に住むようになり、はじめてミンククジラのお刺身をご馳走になりました。今まで、鯨がスーパーで売られているのを見たことがなく、どこで買えるのかを聞いたところ「調査捕鯨で揚がった鯨を買ったんだよ」と、教えてもらいました。

調査捕鯨って何だろう？

1946年、世界各国で鯨をたくさん獲っていることが問題になっていたため、保護を目的にした「国際捕鯨取締条約」が結ばれました。1948年には「国際捕鯨委員会(IBC)」が設立され、日本は1951年に加入しています。

その後、世界中で動物や環境を守る活動がさらに活発となり、1982年には、IBCで商業捕鯨を一時的に停止することが決まりました。1988年までには、マッコウクジラやミンククジラなど、大型の鯨13種類の商業捕鯨が、すべて禁止となりました。

それから今まで、日本は「世界各国がルールを守って鯨を獲れば、商業捕鯨を禁止する必要はないのではないか」と、IBCに働きかけ続けています。

その主張に必要な科学的根拠を集めるために、調査捕鯨を行っています。こうして、日本人が昔から鯨を食べてきた文化を守っているようにしています。

調査捕鯨って何してるの？

調査捕鯨では、主にミンククジラがどこに、どのくらいいるのか、それはなぜか等を調べています。

方法のひとつに、捕鯨船から鯨を数える目視を行っています。また、捕獲した鯨の耳あかや歯から年齢を調べたり、どのようなエサを食べているのかを調べて、鯨について分析しています。

2016年、春の調査捕鯨では鮎川港を中心とした半径80キロ以内の海域で、ミンククジラ28頭を発見し、16頭を捕獲しました。

2017年の調査捕鯨では、北海道網走沿岸や青森県八戸沖、岩手県沿岸の海域にクジラがどのくらいいるのかを調査するそうです。

鯨のある食卓

調査捕鯨のために捕獲されたミンクジラは調査の後に、鯨肉として販売され、各家庭の食卓に並びます。私もその刺身をご馳走になりました。

国際情勢により、IBCで決まってきた商業捕鯨と調査捕鯨という2つの捕鯨方法は、牡鹿の「鯨を獲る方法」を変えました。そのことで、人々の生活は大きく変化しましたが、それでも、約110年にわたり、鯨を食べる食文化は続いています。

今、私が見ている「鯨のある暮らし」は、長きにわたり日常の風景になっていくことを知ることができました。

鮎川浜の調査捕鯨船は、今季も大切な牡鹿の食文化を守るため、出港します。



いざ、出港！(昨年度の様子)

4/10(月)



鮎川小学校



牡鹿中学校

入学おめでとう



大原小学校



寄磯小学校

4/6(木)

おしかちくほいき

保育所の先生が「みんな元気に過ごしていきましょう」と呼びかけると「はい!」と大きな声で、子ども達が返事をし、元気いっぱいの入所式となりました。

みんな仲良く、健やかに育ててほしいですね。



4/2(日) 給分浜 集会所お祝い式

設計に携わった大阪工業大学、施工担当者と地域住民が集い、集会所のお披露目とお祝い会が開かれました。給分の拠点として、緊急避難所として、

子どもからお年寄りまで、みんなで使える場として活用されます。

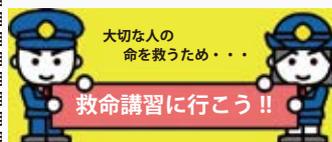


牡鹿地区内の小中学校にて、入学式がおこなわれました。少し緊張気味の新1年生。保護者や上級生、地域の方々に見守られ、新しい学校生活がスタートしました。

防火座談会・救急講習のご案内

昨年度、牡鹿地区では各地区のお茶っこ会や、食事会等から依頼を受け、防火座談会と救急講習を開催しました。少人数のグループやお仲間同士での依頼で構いませんので、多くの皆さんに開催して頂きたいと考えております。

消防に関して、普段疑問に思っていることを知っていただく良い機会にもなります。少しでも興味があれば、いつでも牡鹿出張所までお問合せください。



大切な人の命を救うため・・・

救命講習に行こう!!

女川消防署牡鹿出張所

TEL 45-3174

編集後記 ウグイスのさえずりが聞こえ、過ごしやすい季節となり、自然豊かな牡鹿で仕事ができることに喜びを感じています。牡鹿の良さをみんなに伝えられるようにメンバー皆で心がけながら編集したいです。